



〜シーズン2「清シス・アピール」

エピソード 12 : 紛れ込める場の中で

しすてむ♥きよだけ

☆☆おつきだし☆☆

あまりにも困り込みを感じた。

僕には不適切な場所だと思い、拒んだ。でも、すごくインパクトがある僕(らしい)のに現場に馴染むし、ぜひ続けてと言われ、もう一度考え、悩み悩み伝えて続けてみた。

そんなこんなことを、4か月ほど繰り返した。正論を求められ、拒んでいた。正論がどうなるのかなんてわからないから。でも、会話の流れで言った。その拳句、いつのまにか、批判していると思われ、いつの間にか決めていた期間も過ぎ、終わった。

こん実践について、試行錯誤書こうと思っていたが、面白くないことを選んで書いても面白くない。だから、僕が好んでいることを今シーズンから書くことにした(最初の方に書いていた【SMクラブの受け付け】は楽しかった)。

誰かの人生や街中、町中の道中に居てもいなくてもいいけど、あったらいいんじゃない?と思うようなコミュニケーションを。

☆☆今回のお品書き☆☆

- 1: 出かけるとき
- 2: コミュニケーション発動装置
- 3: 台本のない舞台
- 4: 今の時代コントかよ!?
- 5: 旅の醍醐味! 予測不可能
- 6: 決断を応援したい
- 7: これから入って来るひと



1: 出かけるとき

依頼先で、僕ができることは何か... どうしたら、僕自身が面白くなるだろうか... とぼんやり考えていた時だった。

「行ってみたい喫茶店がある。愛流くん、好きだと思う。煙草も吸えるみたい。」

「行こうか〜煙草吸える場所なら」

誘われて出かけることは多いな～そんな時こそ、おもしろいことがあると知っている。ただ、そこそこ見極めるポイントはあ。まず、僕は、僕だから。

2: コミュニケーション発動装置

僕は、とある喫茶店に行くことになった。だいたい、僕が目的をもって外に出るときの基準と必須ポイントは、煙草が吸えるか、長居できるか。この2つ。

近年、禁煙が推進されているが故に、喫煙可能な場は、愛煙家の僕にとって貴重な場所になっている。

喫煙者は、どんどん煙たがれているような時代だ。分断されたからか、ニオイすら嫌だとか言われるようにもなった。10年前くらいまで、そんなことはなかった。

10年前くらいの僕は、喫煙可能な年齢くらいだった。どの煙草が自分にじっくりくるだろうかと考えて、やたら、色々な銘柄を買っては、自宅に友人が来た時や出先で誰かいる空間で、吸っていた。

僕は、交友関係がべったりしているわけではない。頻繁に会い、話す相手が決まっていたわけではなかった。今もそうだと思う。しかし、思い出すと、煙草を吸っている時は、人と集い、それなりの会話を交わしていた。ほぼ、静止している間に誰かと話し、関わっていたのだ。

今の時代、こういう状況に出逢うことは

少ないのではないだろうか。言い換えれば、あの頃は、それとなく人と関わるのが可能な時代だったようだ。

禁煙推進をやめてくれ！とっているようであるが、そういうことではない。ま、そうでもあるのだけど。ただただ…嗜好品が、緩やかに誰かとかかわりや、そういう嗜みの場所で、そんなに大きなことではないが、それとなく言葉を交わせる人の特性が、発揮されているんじゃないの～？とは言いたい。

もしかすると、制度や政策により、減少傾向に当たり前化のように進んでいるような気がする。

それはそれとして…僕は、人がもつ緩やかに起こるコミュニケーションを発動させられる装置になれやしないだろうか？と思わんばかりだ。

3: 台本のない舞台

とある喫茶店に居る僕の周辺が気になり始めたのは、着いて30分もしない間だった。印象は、15時～17時前まで、おじさん多し！

ただそれだけ。でも、何で気になったのだろう、とぼんやり考えていた。

最近、嫌われているイメージをもつことは『おじさん』。その彼らが、集合しているのだ。

きっと、思春期の女の子は、嫌いだろう...新聞や週刊誌を読みながら、煙草を吸い何か飲んだり食べたりしている。お洒落じゃない、ながら行動に見えた。

あれッ...!?嗜好品を嗜んでいるのに洒落じゃない、このギャップ!喫煙者が集う場所には、そんな現象が現れている可能性があるのではないか!?と思い、気になった。

もう一丁ウ!最近、おじさんたちがシェアして暮らしているドラマ『バイプレイヤーズ』。人気があり、第2弾まで放送されている。視聴者の一部には、おじさんラブな人たちもいるようで、おじさんニーズは、増えている現象もある。

一方で、先にいったよう、嫌われるだろうと思うおじさん。ラブに入らないおじさんたちが明確になりつつあるのかもしれない。



おじさんラブの反対側には、一定の嫌わ

れるおじさんが常である?と言っても過言ではないだろう...

※『おじさんずらぶ』というドラマもある。内容は割愛させてもらうが、兎にも角にも「おじさん」がキーワード。異性・同性に「おじさん」好き、いや、好きな「おじさん」像が現れたには違いなさそうだ。

またまたもう一丁ウ!...これは、既に違いが明確な話。ジェンダーね。

女性って集うイメージあるでしょ。いやいや、そうじゃないわよ!!おじさんっておばさんより集うイメージはないけど、集うのよー!

ぼんやり、僕は喫茶店で過ごしていた。本を読もうか、iPadを出して仕事をしようか...そんな時だった。おじさんずが合席。

知り合いを見つけ、待ち合わせをしていたわけでもないのに、すすすすす〜とその人の席にいき、同じ席に「座っていい?」なんて言わずにすわり、そのまま「ホットコーヒー」と注文したと思えば、次にはもう目の前の相手と「ビットコイン」話。

それがこの人たちにどんな関係があんの!?と思うくらい、パジャマ姿のようなおじさんだったのだけど、続けて「商売ばなし」や「荷物送る」など、どうのこうの話していて、どうやら、商売人の社長たちだ。

彼らの儲けがどうなっているのかなんて僕には関係ない。だけど、最近、いちいち

「いいですか?」「どうですか?」確認してくる作法とは違う作法が、通用する人たちが、まだいるのだ!!と思い、僕は面白味を感じた。

言い換えると、僕は、突然参加型人間だからだろう。「急に入ってくるよね!？」と言われることは、少なくはないからだ。僕の振る舞って、嫌われがちなおじさん?と思うような出来事で、くすくすと笑えた。

だけど、いきなり始まることだって、世の中には多い。用意していた通りに行くとき...台本があり、それを操る人がいる時だ。いわば、つくられた場には、急な始まりは少ない。

となると...日常の多くは、どんな始まりがあるかなんてわからない。だから、人生は面白い。

僕は、それが、起きたらいいなあ~と思ったり、そういう状況を楽しめる人たちと居たいし、そうでないけど、そうなりたいと探している人たちには、協力したいと思っている。

4: 今の時代コントかよ!?

急に入らない以外、いちいち、今から入りまーす!なんて言っていたら...芸人のコントか?と思ってしまうのも僕だ。人が誰かと関わり始める時に、形式なんてなくてもいいんじゃない?あるから、でき

ない人は、排除されるし、形式にこだわってしまうことだって起こりうると思うのだ。ま、分からないけど、どうもそういう社会システム...お作法によって生まれている事象は少なくないだろう。

なんとか、いい働きかけをしていきたい。喫茶店のおじさんたちの中に居て、改めて思ったのだった。

5: 旅の醍醐味! 予測不可能

集っている男はおじさんだけじゃなかった。学生らしい男2人もいた。

薄っすらと日がさす寂れた窓際に。彼らは、宗教について話しているようだった。

「キリスト教から派生している宗教、教えは多く...」と各々が知る宗教、理念を話していた。「へーへー」と心の中で思い、僕はそのまま自分が過ごしたいように過ごした。詳しく覚えていないのはとても残念なのだが、彼らなりの解釈を語っていたようだった。

会話は面白い。違う考え、見立てがあろうとも、相手が発したことに誘発され自分の考えを発している。その繰り返した。

ただただ、誰かと過ごす時間の中では、相手がいるかないかで、随分と違う方向に進んでいく。きっと、1人だと、ある程度決めた、分かった道筋をたどり、辿り着く行き先も分かっていることもあるのではないだろうか。時間の中にあつた会話だ。

それを思い返すと、他者に巻き込まれ便

乗する時間も人生の一部で、面白いもんだ。

僕は、そんな人生を歩みたいし、そんな歩みを面白いと思う人がいるなら、その人たちと予測不可能な旅路を歩みたい。

6: 決断を応援したい

男性だけじゃない。薄暗く煙たく、冷やかな場に女性もいた。店員さんだ。私服だった。客か店員かわからなかった。彼女が帰るとき、明確になった。

茶髪のデニム生地 of 服を着た女性。帰るさい、うろちょろしていた子どもが彼女に近寄っていた。母親のお仕事終わりを待っていたようだった。「お疲れ様でした～」と女性が発し、子どもと2人で外にでた。

外で待っていたのは、旦那だったようだ。何かにこやかに話し、合流。彼ら3人は見えなくなった。

場所がノスタルジックを感じさせたからか、懐かしい光景だった。

働く女性を応援することを掲げている現代社会だが、昔から働くことを認めている...いや、そうしようと決断して動いていた家族もあったのだと思う。僕の90歳くらいの婆さんは、昔働いていた。

社会が応援することも一つあるが、家族が決めて動けること。きっと、それが、こらからの力になるのだろう。

そう思うと、社会は、その家族の決断も応援できるようにしていくことが、軸にな

るのだと思う。

そして、どこかに居させてもらう清シスの装置である僕には、なにができるのだろうか。

7: これから入って来るひと

まだ、学生らしき男はいる。そして、店にセーラー服を着た女子高生が、ニコニコ話しをしながら入ってきた。



★☆☆☆☆

はい。今回は、ここまで！中途半端でしょー。だって、僕、そうですもん。自分で区切りつけたことには忠実なんです。それが、今回はここまでで、他の人からしたら、めっちゃ中途半端なんですー

どうです？一直線に進んでいたり、同じ業界だけに留まっている方がいいませんか？あれこれ、作り直しばかりしていませんか？

からない。」そんな時に部品の1部だと思って、ぜひ導入を！

僕は、より良く動いていることは何か、すぐにおわることは何か？そんなことを考えながら、前者を作るに一旗揚げています。でも、失敗も多いんです。皆が皆、同じ考えではないですからねー。届くところに届けられることができたらいいなーと思っています。

通りすがりの旅人です。 [清武システムズ](#)という看板を引っさげ、お仕事中。めんどくさいことも起きるけど、そっから面白く展開していこうじゃないか！「何か変化を求めているが、手立てがわ